「春馬と共に・・」

キレイな男でした。
清らかな男でした。
真っすぐな男でした。

稽古場で春馬を呼ぶ際、間違えて息子の名を叫んでしまう事が多々ありました。
・・・それだけ、私にとって春馬は「家族」でした。
作品の区切りであったり、何かにつけ、お酒が呑める歳になってからは、「五朗さん、イイっすか〜」と呑みに来ては、語らい、酔い、何かを吹っ切り千鳥足で、「また、来ま〜す」と、あの屈託のない笑顔を残し帰っていきました。今は、もう、来てくれません・・・

あの日・・・
「真剣」に「本気」で時間を数時間戻せないか考えている自分がいました。頭の回路が少し壊れていました。衝撃に心が独占され「冷静」のバランスが取れず現実なのか虚構なのか・・・時間をほんの数時間戻せたら、春馬を「とりもどせた」そう思ったのは私だけではなかった筈です。「驕り」かもしれませんが・・・それほど、我々や近くにいたスタッフにとって、この悲しみの終着点は見えないままです。

「四十九日」を終え、私の中で春馬から授かった「確かなもの」と共に、
前に進む為の幾つかの事を整理し実行しなければと思っています。
1993 年から始めた AIDS の子ども達への支援、12 月 1 日世界 AIDS Day の
「Act Against AIDS」のチャリティコンサート。気づけば、数年前から春馬が
私の右腕となり必死に参加してくれるようになりました。
我々AAA THE VARIETY チームはラオスに AIDS 診察のできるドクター、スタッフを揃え小児病棟を設置する目的を持ち、お客様の貴重なチケット代により 2015 年に叶えることができました。春馬は自らラオスの小児病棟に視察に行ってくれて、役者ができるチャリティを探求し力を注いでくれました。
スケジュールの都合で春馬とは別に私も何度かラオスに足を運んでいた中で、「共通の想い」が心に湧き上がっていました。それは、小児病棟で目の当たりにした AIDS 患者以外にあらゆる難病、そして飢餓による栄養失調などで苦しんでいる子ども達。
自然に溢れてきた春馬との想いは、AIDS は勿論ですが他の要因で苦しんでいる子ども達へも、より多くの支援をするべく自分達が精一杯できる範囲内でチャリティ活動をしていくことでした。

2020 年 12 月 1 日「AAA」はより多くの子ども達の援助支援を志す為
「Act Against Anything」として新たなスタートを切る事を決定していました。
アミューズは心から人を思いやれる家族のような会社です。
十代から幼き末っ子であった春馬が気づけば、たくましき長男になっていて、
その長男「春馬と共に誓った志」に愛するスタッフ達も強い意志で賛同してくれました。
「一人でも多くの子ども達の命を救いたい」と言っていた春馬はもういません。
でも、その時の彼の意志は紛れも無く揺るぎないもので、その意志を継ぎ、
コロナ禍に負けず！仲間達と共に手に手を取って武道館チャリティを開催したいと
思っています。

皆様に２８年間支えて頂いてきたチャリティライブは新たな産声をあげることになります。引き続き皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。
そして、このライブには、いつも必ず春馬が一緒に舞台上にいてくれる事でしょう。

皆で春馬と共に・・・

岸谷五朗

みんなが大好きだった春馬。
未だに、意味がわからない。訳がわからない。信じられない。心の整理がつかない。
春馬と一緒に過ごした、様々な場面、愛くるしい笑顔、凛々しい横顔、共に乗り越えた、
苦しくも楽しかった稽古、本番でお客様に大きな拍手をいただいた喜びを分かち合い、
旨い酒を呑んだあの時。
春馬との、かけがえのない思い出が、そして、眠るように穏やかだった、最後の顔が、
１日に、何度も、俺の頭に、フラッシュのように、浮かび上がる。
悲しい。
でも、春馬はいつも、見ていてくれているはず。
春馬と取り組んでいこうと誓った、ＡＡＡ、アクトアゲインストエニシングを、
春馬の意志と共に、開催します。
春馬と一緒に、頑張ります。
皆さんも、どうか、春馬の思いを、繋げてください。
よろしくお願い致します。

寺脇康文